

オールド・メルセデスが持つ現行モデルにはない魅力

撮影がはじまる前、おふたりはご自分のカメラで愛車の写真を撮っていた。眺めてはシャツを切り、シャツを切ってはまた眺める。毎日見てもちっとも飽きないらしい。

中西さんは大のメルセデス好きで、現在は'57年型190SLと'87年型500SL、奥様の高樹沙耶さんが所有する'98年型E320の3台がガレージに並ぶ。

「320は長く乗っても疲れなし何の不自由もないし、人を乗せて動く道具としては元気」でも、

SLみたいな「動かしてある感」とかボディラインの美しさはないでしょ。SLはオープンカーでありながら、ラグジュアリーではほどよくスポーティなところがいいんです」

乗っているだけで感傷に浸れるのがオールド・メルセデスの魅力だという中西さんにとて、250SLに乗る西田さんはかけがえのない友人である。クルマ、カメラ、旅……驚くほど趣味が似ていて異性だったら結婚したいぐらい話が合うらしい。

「でも、250は手放すかもしれない」と西田さんが言うと、

中西さんは「それはヤバすぎる。欲しくなっちゃいそうで」と言つて笑う。愛車の話をするおふたりは、まるで小さな子供が大好きなおもちゃを前にしたときのように、とにかく幸せそうだった。

190SL with 中西圭三

●にしだ・ようへい 1964年東京都生まれ。演出家。昨年9月、仕事を通じて中西さんと出会う。今秋銀座で、中西さんと写真展を開催予定。

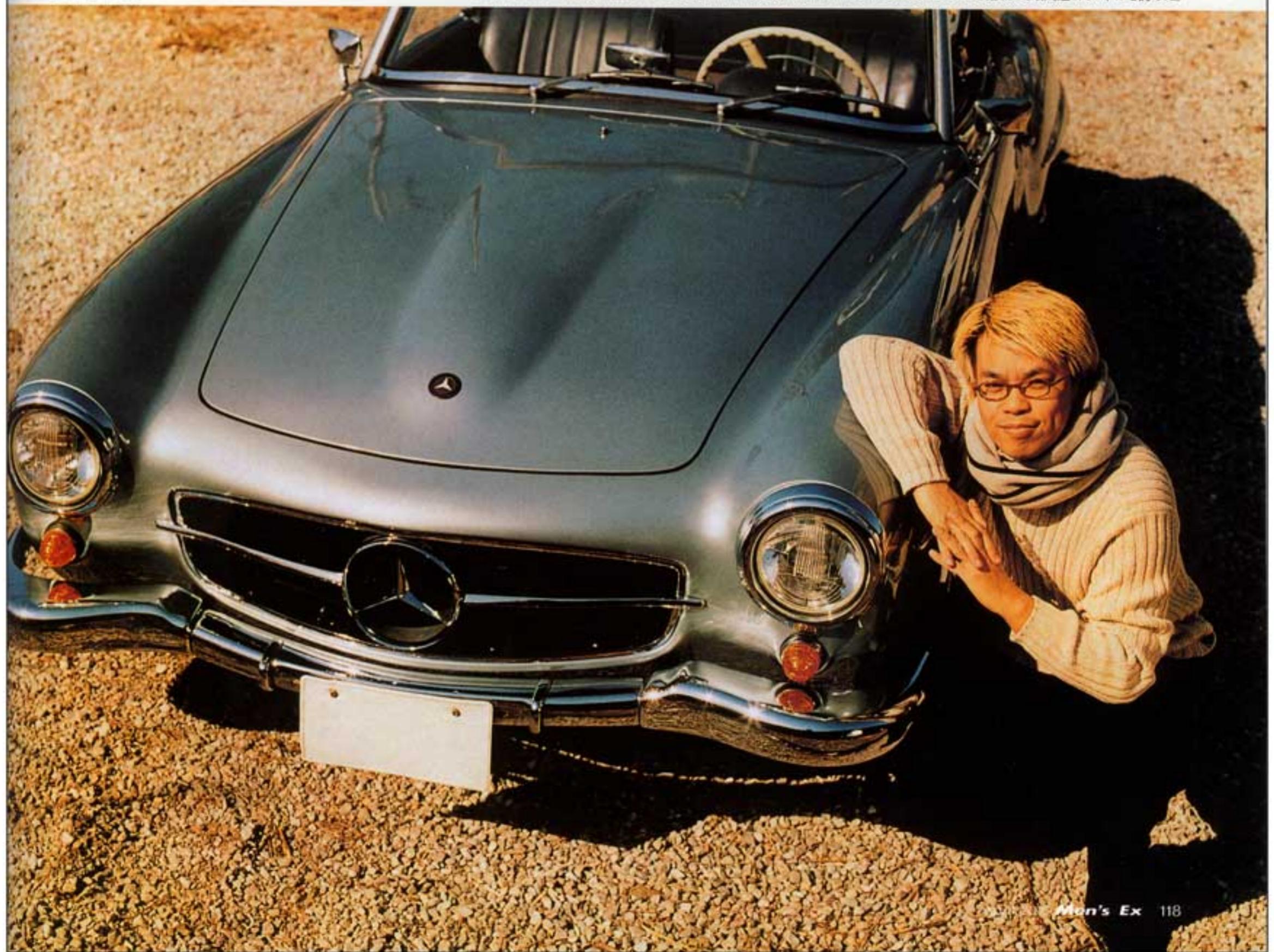


250SL with 西田擁平

●にしだ・ようへい 1964年東京都生まれ。演出家。昨年9月、仕事を通じて中西さんと出会う。今秋銀座で、中西さんと写真展を開催予定。

250SLは、190SLの後継モデルである230SLの兄弟モデルとして登場。'66～'68年にロードスター、クーペ、幌とハードトップの両方を備えた3タイプが生産された。2.5L SOHC、全長4285×全幅1760×全高1305mm。

久保加純里 ●文





村井昭美 (しゆい あけよし)
●日本で最も長い歴史を持つ靴
専門店。多くの雑誌、
新聞などに頻繁に掲載するほか、
時計や小物など
にも注目しており、それらを
テーマとしたTV番組の製作、監修にも携わる。



男の靴事情とは?

村井昭美・文(批評家)
TEXT by SUKEO MURAI



西田純平 (にしだ じゅんぱい)
●舞台俳優として活躍する一方で、
「トランクライター」の仕事もこなす。
「靴は、本当に大事な存在だ」とい
う西田は、「トランクライター」の仕事に就く
以前、日本で最初のサルバードセレクト
が「トランクライター」をつとめていた。西田は、
「トランクライター」の仕事は、靴を扱う
技術的な面だけではなく、靴の文化や歴史、
靴の歴史などを理解して、靴を扱ううえで
役立つ知識を秘めた者が必要だとされてい
る。

その後各地域の民族風土や文明の進
化レベルに随分と遅れて、近頃では既に「モ
ード」として世界共通の靴文化が確立され
た。「靴の文化」は、今日の洗練された多くの
の靴スタイルを生む柱だ。中でも靴店近
くの靴屋さんでは、「時計の靴屋で
かかられた靴類の靴」と「エラウチック
エア(靴)」との如きなどとされてい
る。

その後各地区の民族風土や文明の進
化レベルに随分と遅れて、近頃では既に「モ
ード」として世界共通の靴文化が確立され
た。「靴の文化」は、今日の洗練された多くの
の靴スタイルを生む柱だ。中でも靴店近
くの靴屋さんでは、「時計の靴屋で
かかられた靴類の靴」と「エラウチック
エア(靴)」との如きなどとされてい
る。

CHECK THESE OUT



靴が教えてくれた いくつかの事柄

西田純平・語り(演出家)
TALKING to TOHEI NISHIDA

西田純平 (にしだ じゅんぱい)
●舞台俳優として活躍する一方で、
「トランクライター」の仕事もこなす。
「靴は、本当に大事な存在だ」とい
う西田は、「トランクライター」の仕事に就く
以前、日本で最初のサルバードセレクト
が「トランクライター」をつとめていた。西田は、
「トランクライター」の仕事は、靴を扱う
技術的な面だけではなく、靴の文化や歴史、
靴の歴史などを理解して、靴を扱ううえで
役立つ知識を秘めた者が必要だとされてい
る。

西田純平 (にしだ じゅんぱい)
●舞台俳優を中心とした
映画、TV番組の脚本家として活躍。
9月には脚本ノービルにて、中西圭三とのコラボレ
ーション企画展を開催。



THE EVER-STYLISH SHOES & BAG 2000

男を魅了する靴と鞄

山下昌身、石垣梅章 (P77)、坂本道浩 (P76)・写真
PHOTOGRAPHS by MASAMI YAMASHITA・KENSUKE ISHIGAKI・MICHIRO SAKAMOTO
SPECIAL THANKS to SUKEO MURAI・BRIAN ARANGA

およそ男にとって靴・鞄ほど
スタイル構築にとって重要な要素となるアイテムはない
いかに高価なスーツを身に纏っていたとしても
靴・鞄が貧相だとしたら、すべては台無しとなる
男を磨く、男を上げる靴・鞄
GQ渾身のセレクトをここに紹介する

上: カツオ・スカーフ・ワイルド、セシル・
ビートンなど脚付のダンディに愛された「ス
クープ・オブ・ショーメーカー」。英国の靴
オックスフォード￥140,000 (ジョンロブ/
ジョン・ロブ青山本店☎03-5411-5403)
下: デザインと品質の確かなとともに、健
康さと気品を兼ね備えるのがエクセルメス。左
は、ブリーフケース￥500,000 (エクセル
メス/エルメスジャパン☎03-3669-36
11)



エルメスから
クロムハーツまで

男の ラ作 ジンド ブ傑



日本で買える
王室御用達ブランド



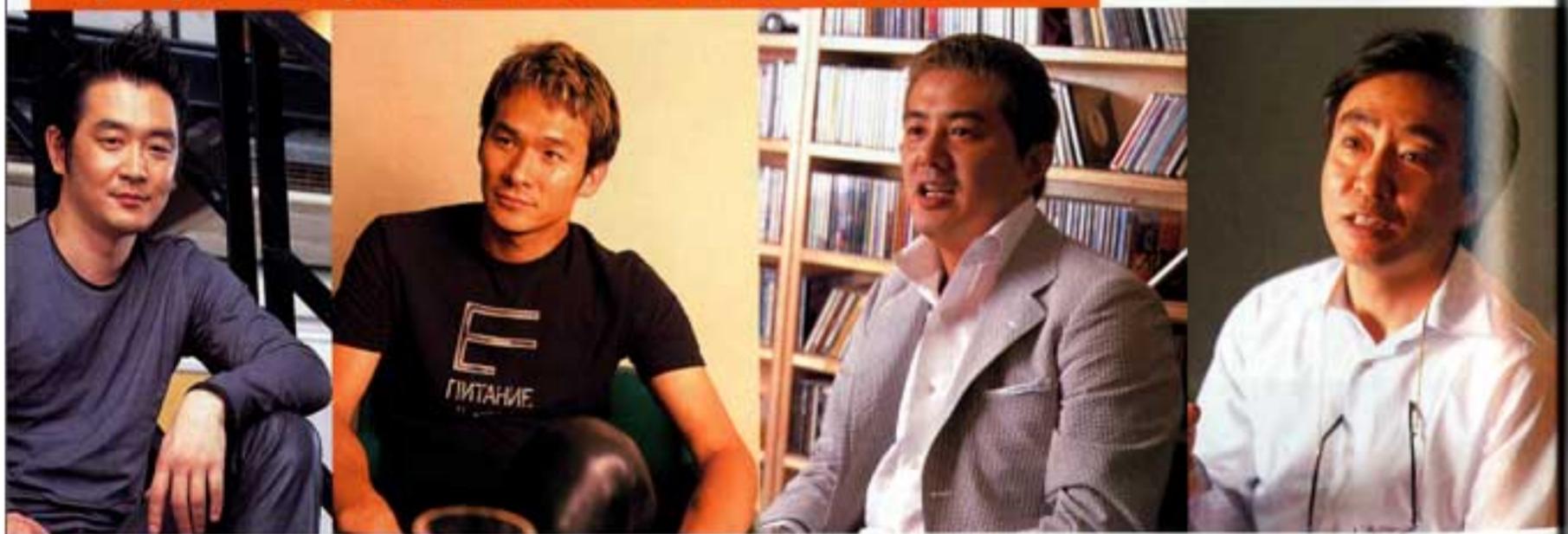
デザイナ
ラ用御
ブランド



注目する旬
ブランド

読 本

本物を見極める眼を持つ



「ブランドとは、単なる商標である。
たいした意味はない」とは落合正勝氏の弁。
だから一部の若者達のように
ブランドに踊らされてはいけない。
大人たるもの確固とした選択基準を持ち、
その本質を見極めたい。そこで
読者諸氏より、少しだけ経験と
浪費癖のある(?)各界の著名人に取材し、
愛するブランドとその理由を伺った。

撮影 松尾映二郎・高井雄三・羽井一隆、
山下昌身、ミカミヤスヒロ・太田隆生、田中雅

佐渡谷風利、佐藤聰一郎(本誌)
スタイルング・浅野康一(アメイク)・森井俊二

取材・文・高橋シゲル・藤田雄里

本誌編集部員が
勝手に選ぶ
イチオシブランド



本誌スタイルリストが
愛用するブランドは?



本誌スタイルリストが
愛用するブランドは?

専門誌編集長の
溺愛ブランド



私たちこんな
男物ブランドが好き



自社ブランド
以外で
好きなのは?



男性誌編集長に訊く
貴方の旬なブランドは?

西田擁平

レオナルド・ブジエツリ

STORY イタリア、フィレンツェに位置する老舗オーダーシャツ店。レオナルドの母親もレディスのシャツの仕立てを生業としていた。顧客リストには、ステファン・ペーメル、チエレリーニらの名が並ぶ。

イタリア流オーダーシャツの方法

パンチ（生地見本）から生地を選ぶ。
スイスのアルモ、イタリアのシックテスなど世界の一流生地が揃っている。

ワイドスプレッド、レギュラーなど、襟型は6種類を用意。ダブル、シングルなど、カフスの形状も自在に選べる。



フィット感の秘密はこれ。顧客にシャツゲージを着てもらい、それを摘んでサイズを微調整していく方法をとる。

身頃とネックを別々に選べるため、体型に問題がある人でもぴったりの一着ができる。西田氏の悩みも解決。

日本ではここでできる



ストラスブルゴ
本誌ではすっかりおなじみの本格的服飾専門店。エドワード・グリーンの輸入元としても知られる。既製のみならず高品質なオーダーメイドも扱う。④東京都港区南青山4-9-28 ⑥03-3470-6367 ⑦11時~20時 ⑧無休



A・ピニョッラのシアサッカーのスース。F・ミュラーの時計も。

ブランドというより "オーダーメイド"に出合った

「シャツは白しか着ません」

開口一番驚きの発言。今まで何百枚ものシャツに袖を通してきたが、そのほとんどが白だという。

なぜでしょうね。たぶんすべてのシャツのなかで最もフォーマルな色だからじゃないですか。僕らの業界はノータイが基本。でも僕は人に会うからはそれなりのTPOをわきまえたいと思っているんです。そこでスーツに白シャツ、ノータイというスタイルに落ち着いたわけです」

バルバ、フライをはじめいろいろなブランドを試したが、今ひとつ納得できない。そこで出会ったのが、レオナルド・ブジエツリのオーダーシャツだった。

「サイズでは随分と苦労してきました。ネックに合わせるとボディ

が入らない。ボディに合わせるとネックが大きすぎる。そこで想意にして、ショップの方の勧めで、初めてオーダーシャツを作つてみたんです。これがよかつた。アームホールは狭くても動きやすいし、パンツに入れた裾まわりのブラウジングもキレイに出る。すっかり虜になりました。だからブランドに出会つたというより、オーダーシャツに出会つたという感じでしょうか」

他の好きなブランド

ラ・ベラサルトリア・ナボレターナ
エルメスの革、フランク・ミュラー
人が作ったモノのみを持つ「温かさ」に惹かれるという。他にエドワード・グリーンやバテックの名も。



愛用品
愛用し始めてまだ2シーズンめだとい
うのに10枚以上をオーダー。生まれて初め
てブルーのシャツも作ってみた。

イタリア、フィレンツェでの地元有数のメンズ・ファッショニオの見本市“ピッティ・ウオモ”に合わせて開催された、英國ライフスタイルブランド・マルベリー主催の英國村イタリアのボートレースとパーティ。その嬉しい集会った人々との写真。

P142の右から3番目の写真中央がマルベリーの相談ロジャー・ソウル。

「エキサイティングな驚きを創造してゆきたい」

西田擴平：写真・文
Photographs and Text by Yoko Nishida

英國の魂がそこにはあった

6月21日、ピッティ・ウオモでたたかれた。ヨーロッパの街に伝統のボートレース対決、イギリス対イタリア戦。「ヨコモガターナー」がフィレンツェ・ローリング・クラブで開催された。ベック橋付近は、いつにも増し情熱的語感の胸の音がこだましている。そんな興奮をよほどに、僕とMulberryのロジャー・ソウル氏との初めての出逢いは、静かに始まった。衣類から小物類、家具に至るまでのライフスタイルブランドとして常にチャレンジを続けている“Mulberry”。繊細でもあり、クリエーターでもあるソウル氏は、“アッシュション”とは、人々にとって自分のココロ表現であり、作品は、日々新たなココロ充電を楽しむための驚きであつた。彼は、人と感情、そして遊びと環境を演出するステージ。様々な経験を絶えまなく続け、彼自身の源、愛情と信赖で結ばれている家族と友人を育むための大いな場所なのだろう。彼の興味は、各々のデザインがどうの一切なくしたくて、最初に書いた彼の一言に引き込まれていった。

人として、クリエーターとしてのこだわりに終始したフィレンツェの午後

演出家でフォトグラファーの西田擴平が
フィレンツェで開催された英國ライフスタイルブランド
マルベリー主催のボートレースとパーティで
出会った人々の姿を愛情を込めてファインダーに納めた

MULBERRY'S COMFORT

Where the heart is ...

フィレンツェの川面に
流れた至上の時間
マルベリー、ボートレース開催

GQ | 144

同じブランドのものでも
靴の顔によつてパンツは変わ
てくる



エルメスのブルゾンとインコテックスのパンツにびったりのエドワードグリーン。夏から初秋にかけて素足で履く。



エドワードグリーンのアンクルブーツ。パリで購入。少し上品なカジュアルスタイルに合わせることが多い。



イタリア製のシャツジャケットとY.AKAMINEのボタンダウンシャツ、インコテックスのパンツ。インコテックスのパンツは、形がきれいで最近気に入っている。

こだわりの品

サハラ砂漠を旅行したときに購入したトゥワレグ族のアクセサリー。「平和・協調・愛」をテーマに作られている。エルメスの2年前のコレクションで使用され話題となつた。

アンティークの時計をコレクションしている。その日々のスタイルに合わせて時計もコーディネートする。お気に入りは、バテックフィリップのアンティークとフランク・ミュラー。



エルメスのジャケットとペガソのシャツに、あえてライス501XXのジーンズ。ベルトはエルメスのトゥワレグ。ジーンズスタイルでもカジュアルになりすぎないよう、上品にまとめる。



エドワードグリーンの編み上げブーツ。カーゴパンツやジーンズなどに合わせて履いている。

靴とパンツはデザインの美しさを基準に選ぶ

職業柄、シチュエーションやシーンに合わせてさまざまなスタイルの服を着る。西田さんのファッションに対する意識の高さは、そんな日常の中から育まれたものだろう。ドレスダウンしたいときはスーツにスニーカー。アメリカンカジュアルには遊びのあるデザインやボリュームのある靴でバランスをとる。フレンチカジュアルにはヨーロピアンスタイルの靴を合わせて上品にまとめ上げる。「靴は美しさと機能性の両方を兼ね備えたものが好きです。靴選びに決まりはないけれど、靴と服のテイストが上手く調和するように考えながら選びます」。パンツはクラシカルなデザインが好み。どこでパンツを購入しても必ず行きつけのセレクトショップに持ち込み、靴に合わせて裾幅や丈を直す。西田さんの靴に対するこだわりは、靴とパンツの絶妙なバランスに見事に反映されている。

靴とパンツはデザインの美しさを基準に選ぶ

西田擁平さん(37) 演出家・写真家

東京都渋谷区在住。国内外のミュージシャンのステージを中心に、ファッションショーや映像などの総合的な演出、プロデュースを手掛けている。最近では、作词家、写真家としても、幅広く活動している。



いのものにするための基準を測っているところがある。そのためには乗はさずに街を走っているほうがいい。BMWのエンジン音やバイブレーションの感覚がいい、というのもわかるんです。でも、そういうのが一切ないC.は、サウンドシステムもボーズでかなりクリティックが高く、今のところ申し分ない。C.は俺にとって、音楽の基準を作れる移動スタジオだと思いますね。

今回のアルバムも、クルマに乗って心地いい音楽だと思っています。いつもうつだけど、今回は特にクルマの中でのBGMなどうつことを前面に出して

いて、ぜひクルマで聴いてほしいですね。クルマでどこかに行つて、その間にかかる音楽を決めて、女の子を落とすための演出を考えることを若い頃はよくやっていたし。マービン・ケイとか、自分の好きなミュージシャンに先に歌ってもらおうというか。選曲するの大好きでしたから。それを今度は自分に置き換えて、鈴木雅之というボーカリストが、メッセージとして届けられたら、意外と使えるかもね。クルマの中で聴いてもらつて、いい雰囲気にさせる自信がありますよ。

も

ともとは、50年代の190SLに乗りたかったんです。でも、1年中日本で足に困るには、電線系統の問題、クーラーの問題があって、日本ではクーラーは絶対の必需品ですね。汗だくになつて打ち合せにいくわけにはいかない、というのが僕の場合は絶対条件です。冬はいくらい寒くてもいいんですが。

それで、クーラーを備えた1967年型の250SLに7年ほど乗っていました。とても便利でしたし、最も

車を張り替えてもらいました。趣味と車でなく、あくまで家用で乗るわけですから、換えられるところは新品

どうしても欲しいと頼まれて、最近人に譲ってしまったのですが、正面言つて今でも後悔しています。乗つてみるとSLは70年代のクルマですが、僕の中ではどうつてことのない現代車ですね(笑)。

運転のものは、僕は好きじゃないんだと思いま。スピードを出す必要もないです。だからクルマも、僕がほかのものを持つときと一緒に、完

全なデザイン性の趣味だけで選ぶんですよ。そうなると現代を見渡したときに、新車の中に欲しいクルマがないんですね。ものすごく僕に余裕があつたんです。西海岸のクルマはものがいいんですね。エンジンは最初に見てもらつたんですが、まだ丈夫たるうということ、何もしませんでした。

調子がいいからえていいじゃないほうが多いだろう、という判断です。

運もよかつたのかもしれません、やはりメルセデスの機械的な信頼性が

いれば、120キロでも普通に会話ができます。メルセデスベンツというと、やはりちょっと機械的というか、偉そうな感じなどは思つていません。正直言つて、最初クルマを選ぶときにもメルセデスは視野に入つていなかつたんですね。

ボビュラリティがありすぎて、中途半端に高級車どころもイヤでした。ブランドイメージは、ボディタイプなどネガティブなものと「ファフティ

フィフティ」です。日本での「ベンツ」というのは、細かいがなくて、成金的なイメージがついてしまいますよね。でも、職人の魂というのはどうとも感じます。古いのに乗つていてるのかかもしれません。

デザイン性が好きだというのは、手で作つてある職人さんの手手といふところがあるんです。職人さんは、何に限らず大好きですね。クルマでも何でも、もう現代では二度と作れないものがたくさんありますよね。マテリアル自体が、木一本にしつてせんぜん違うじゃないですか。

もちろんもっと昔に生まれたかったと思いますよ。クリエーターは誰でもそうでしょう。現代においては新しいクリエーションというのはあり得ませんから。すべてエティトリアルでしかないじゃないですか。70年代半ばまですべてのデザインは終わつてしまつたんです。250SLのよくなづくマに乗るのは、いい時代のものに対する尊敬の念でもあるんです。

(聞き手)本誌・鈴木真人)

Mercedes-Benz 500SL

職人の魂を 感じじる

500SLを日常の足にする
西田擴平さんは、
メルセデスに限らず
やはりメルセデスの機械的な信頼性が



500SL

1971年から1989年まで生産されたSLシリーズの最後モデル。
4973ccSOHCV8エンジンを搭載。文中でふれられている250SLは、
1963年に発表された230SLの発展型で、1966年から1年間だけ生産された。



今はボルボのワゴンに乗っていますが、仕事柄ほぼ毎日運転するので、飽きが早く困ります。次こそ長く乗れ、しかも頑丈で、荷物が沢山つめるクルマが欲しいのです。ものすごく高価なので憧れで終わってしまうかもしれません。

BEST BUY
台北・奇古堂の茶器セット
中島涉氏
ジャーナリスト

台北・奇古堂のオリジナルの茶器セット。素朴で味わいのある雰囲気は男性にも人気の逸品。10万円(ギャラリー・ティー茶業)

アロハシャツのコレクションをはじめた。ただ、レイン・スプーナーのアロハといえは定番中の定番アイテムだが、人と差をつけたければH.P.にアクセスされだし。<http://www.rejns.com>

BEST BUY
アロハシャツ
レイン・スプーナー
エッセイスト

アロハシャツではない。レイン・スプーナーのネットで販売されているアロハで、そのモチーフがM.S.B.、NFL、大学、自動車、鉄道、デイズニーなどなど。今までのアロハではお目にかかるない图案ばかりで、それはまるでポップアート。今年は二のターニング・ポイントです。

BEST BUY
綱島理友氏
エッセイスト

今はボルボのワゴンに乗っていますが、仕事柄ほぼ毎日運転するので、飽きが早く困ります。次こそ長く乗れ、しかも頑丈で、荷物が沢山つめるクルマが欲しいのです。ものすごく高価なので憧れで終わってしまうかもしれません。



BEST BUY
メルセデスベンツ Gクラス
ゲレンデヴァーゲン
驚異的な剛性感、世界一の悪路走破性、重い角向かうところ敵無しのキング・オブ・SUV。790万円。(ダイムラー・クライスラー日本)

BEST BUY
筒井義昭氏
カメラマン

宝飾時計の進化を追う
アーリンドバークのアセターネーム
センチュリー・サザンクロス
フレンチ・エディション
西田擁平氏
演出家、写真家

アーリンドバークのアセターネームは、世界初の真空時計の開発成功など多数の特許を持つ驚愕ブランド。193万円(センチュリー銀座)

BEST BUY
フレンチ・ミュラー
トランスマリカ
ワールドワイド
西田擁平氏
演出家、写真家

フレンチ・ミュラーのトランスマリカは、モチーフがM.S.B.、NFL、大学、自動車、鉄道、デイズニーなどなど。今までのアロハではお目にかかるない图案ばかりで、それはまるでポップアート。今年は二のターニング・ポイントです。

特許のサファイアカットの美しさや機能もさることながら、時計という概念を凌駕する圧倒的な存在感で、ほぼ購入を決意しました。個人的なファンションの流れとして「コージャス感」があるものを身に付けていたいと思っています。女性には最近人気のブランドなので会話のキッカケになりそうです(笑)。

また、今年あたりはスクエアフェイスのタイプが流行るといわれているので、先物買いたとしてもいいかも知れない、とも思っています。

BEST BUY
アーリンドバークのアセターネーム
センチュリー・サザンクロス
フレンチ・エディション
西村孝則氏
ファッションコラムニスト

細身のセルフレームはメガネで最もテンションが加わる部分にチタン・鏡を埋め込むことで実現。2万9000円(グローブス・スペックス代官山)



サンブルを見て、掛けた瞬間に一眼ぼれました。普段はコンタクト使用者ですが、「これなら掛けたいな」と思いました。メガネが年々進化しているなか、これはとてもソフトな掛け心地。しかもネジを使用しているため、緩む心配もありません。見た目もセルフレームにありがちなメガネだけが目立つ、なんてこともなく優しい感じで◎です。

BEST BUY
アウディ A4アバント
美森本 美紗子さん
スタイリスト

サンブルはトノー・カーヴェックスピラウンドをミックスさせた「ボリューム感溢れるスタイル」が特徴。115万円(フランク・ミュラー・東京)

BEST BUY
ボーズバーチャルイメージングアレイ
馬場啓一氏
作家

サンブルは加湿器を少し大きくしたようなサイズ。音響空間の制約を受けず、聴く位置の制限もなしで、筆舌に尽くしがたい音を出す。だが、店頭売りはしまおらず、姿、価格を公表せずデモによる直販のみ行っている。いつの日か皆様の目に触れることがあります。どうぞ、ここに紹介する次第。

BEST BUY
トヨタ メガクルーザー^車
西村真澄さん
スタイリスト

オレはあまり物欲がある人間ではないのですが、メガクルーザーだけは欲しいと思う。驚くほど広大なスペースとこれまで驚くべき高い走破性。これはもはやクルマの次元を超えたマシンである。オレはクルマに寝泊りしながら世界中の西海岸を夕陽を追ってみたいと思っている。そのためにはタフで家と事務所代わりになるものが欲しいのです。そこで、これに白羽の矢を立てた訳だ。

BEST BUY
トヨタ メガクルーザー^車
西村真澄さん
スタイリスト

細身のセルフレームはメガネで最もテンションが加わる部分にチタン・鏡を埋め込むことで実現。2万9000円(グローブス・スペックス代官山)



オレはあまり物欲がある人間ではないのですが、メガクルーザーだけは欲しいと思う。驚くほど広大なスペースとこれまで驚くべき高い走破性。これはもはやクルマの次元を超えたマシンである。オレはクルマに寝泊りしながら世界中の西海岸を夕陽を追ってみたいと思っている。そのためにはタフで家と事務所代わりになるものが欲しいのです。そこで、これに白羽の矢を立てた訳だ。

BEST BUY
バシフィックファニチャーサービスのクラークチエア
綿谷 寛氏
イラストレーター

オレはあまり物欲がある人間ではないのですが、メガクルーザーだけは欲しいと思う。驚くほど広大なスペースとこれまで驚くべき高い走破性。これはもはやクルマの次元を超えたマシンである。オレはクルマに寝泊りしながら世界中の西海岸を夕陽を追ってみたいと思っている。そのためにはタフで家と事務所代わりになるものが欲しいのです。そこで、これに白羽の矢を立てた訳だ。

BEST BUY
トヨタ メガクルーザー^車
油井昌由樹氏
夕陽評論家

オレはあまり物欲がある人間ではないのですが、メガクルーザーだけは欲しいと思う。驚くほど広大なスペースとこれまで驚くべき高い走破性。これはもはやクルマの次元を超えたマシンである。オレはクルマに寝泊りしながら世界中の西海岸を夕陽を追ってみたいと思っている。そのためにはタフで家と事務所代わりになるものが欲しいのです。そこで、これに白羽の矢を立てた訳だ。

BEST BUY
トヨタ メガクルーザー^車
油井昌由樹氏
夕陽評論家

オレはあまり物欲がある人間ではないのですが、メガクルーザーだけは欲しいと思う。驚くほど広大なスペースとこれまで驚くべき高い走破性。これはもはやクルマの次元を超えたマシンである。オレはクルマに寝泊りしながら世界中の西海岸を夕陽を追ってみたいと思っている。そのためにはタフで家と事務所代わりになるものが欲しいのです。そこで、これに白羽の矢を立てた訳だ。

若く見えすぎるのは
マイナスにしかならないから
この髪色に変えた



after



西田擁平さん(37)

演出家・写真家
国内外のミュージシャンのステージを中心に、
ファッションショーや映像など総合的な演出、
プロデュースを手掛けるかたわら、最近は、写
真家としても活動を行っている。

アメリカンカジュアルからヨーロピアンカジュアルまで、オフにはさまざまなスタイルの服を楽しんでいる。自己主張しすぎないヘアカラーなら、どんなファッションにも自然とマッチするとか。

オンのスーツスタイルは、ネイビー やダークグレー、黒のイタリアンク
ラシコスタイルのスーツを着ることが多い。ネイビーのスーツにブルー
ブラックのヘアカラーは相性がいいそうだ。



美容室で勧められてから使い始めたヘアト
リートメントとシャンプー、モイストヘア
クリーム。保湿力に優れ、パサつきや色落
ちを防いでくれる。サングラスのフレーム
もカラーに合わせて替えている。



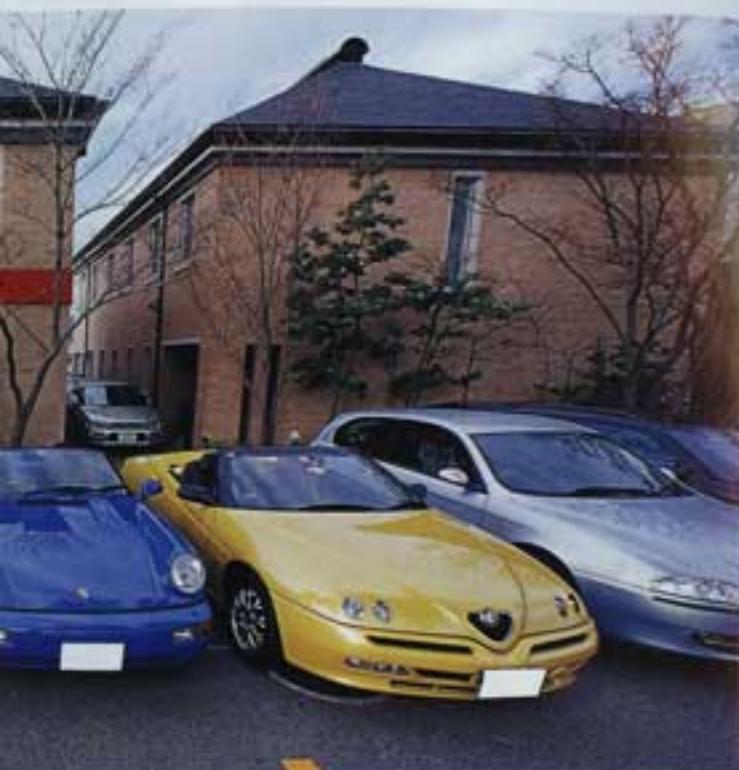
西田さんが「十数年通い続けているヘアサロン」。今は、グリーン系で赤みを抑え、ブルー系で艶感のある墨色にしています。全体に重い印象にならないように毛先にシャギーを入れ、大人っぽいルーズさを出すようにしています。(担当・野口さん)
BASARA●渋谷区恵比寿西1-34-15 ヒルズ代官山602 ☎03-3463-9313 定休日・営業時間
不定(予約制)

寒色系の色を使った
若く見せない
カラーリングの妙
2年前、長年伸ばしていた髪をショートカットにしたところ、黒髪に短髪というスタイルは重すぎて、面白みにかけた。そこで気分転換にカラーリングを始めたそうだ。「最初は、チャコールグレーに染めました。西欧人の中高年のヘアカラーをイメージして染めたのですが、日本人の髪でチャコールグレーを出すのは至難の業。しばらくすると色が落ちて金髪になってしまふんです(笑)。維持するのが大変で、ブルーブラックにしました。赤系の色は、子供っぽい印象になってしまふので、ブルーやグリーンで赤みを抑えながら、大人っぽいスタイルに仕上げています」。自分の個性を熟知した大人だからこそできる、「若く見せない」カラーリングが面白い。

エグゼリーノ

Collecto

くっぽくなく、
クションを公開していただきました！



演出家・写真家 西田擁平さん

Yohhei Nishida

興味の赴くまま チャレンジし続ける

ミュージックアーティストのステージ演出やイベントのプロデュース、テレビ朝日系番組「日まるといふこと」のナビゲーターを務めるなど、多分野で活躍されている西田さん。ここ数年は写真家として海外を拠点に作品づくりに没頭中。「スリルと冒険を求めて、旅をするのが好き。そんな時、横にパートナーがいるといいですね。」

PERSONAL DATA

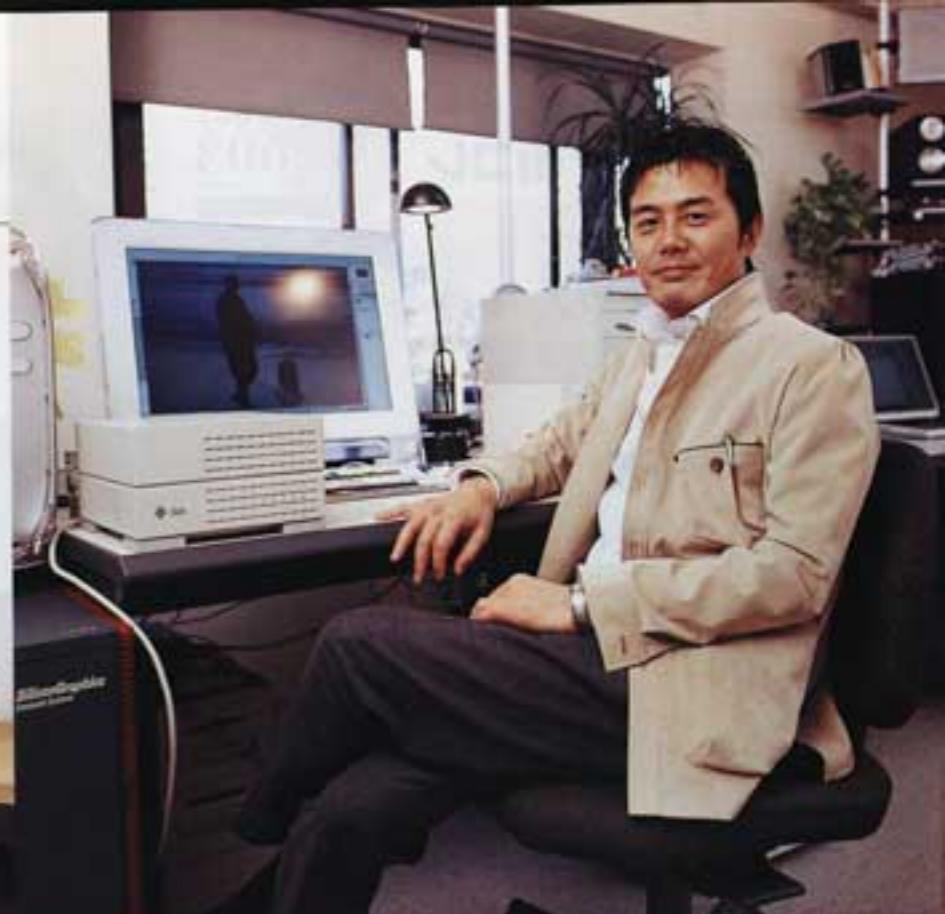
●年齢：38歳 ●趣味：旅、散歩、テレビ視聴 ●愛車：メルセデスベンツ500SL ●好きなヴァカンス先は？：スペインのアンダルシア地方、全沢、京阪 ●お気に入りのホテルは？：サハラ沙漠のテント ●今一番欲しいものは？：パートナー



上□ビジネスシーンでは、フィレンツェでオーダーしたスーツとシャツを合わせたフィオレンティーノスタイル。右上□ロイヤルコベンハーゲンのアンティークコレクション。家族や自分の生まれた年など、記念のイヤープレートを收集しています。右下□最近街に入って置いていくステッファン・ペーメルの靴。



FASHION



上□代官山の自宅近くにある事務所で。下□サハラ沙漠を旅した時にトゥワフレグ族からもらったバンブル。そのほか20点ほどのアクセサリーをコレクションしている。

エグゼリーノ
2003
PART 4



フジテレビジョン勤務 杉尾敦弘さん

Atsuhiko Sugio

オーダーファッションで オリジナリティを追求

現在オンエア中の『お義母さんといっしょ』をはじめ、「ひとつ屋根の下2」など数々のヒットドラマのプロデューサーとして活躍してこられた杉尾さん。そのクリエイティブな性は、オーダー品を着こなすファッションからも感じられます。「お金を出せば手に入るっていうものが嫌い。手間や知識をかけたものに魅力を感じますね。」



FASHION

実例：半歩先の都市型ライフスタイル

週末は都心のホテルで朝食

週末といつても何かと慌ただしい。ならば、余裕を買ったつもりでホテルに足を運んでみてはどうだろう。都心住まいの人の間ではホテルの朝食クルーズがちょっとしたブーム。とくに最新ホテルには、ありふれたコンチネンタルブレックファストを超えた個性派が揃う。スマートに寛ぐ人々を追った。

ご飯は、常に炊きたてが食べられるようにセットされている。下段に焼き石が入ったオリジナルの海苔入れ。定番のなめこのみぞ汁。



撮影／大西尚明
取材／野田奈央



高級旅館並みの和食膳

平日の朝は時間がないからプロテインとコーヒーを飲むくらい。その代わり、週末には友人とホテルで、なんびりと朝食を楽しみます」と語る西田さん。そんな西田さんの週末は、早朝のウォーキングから始まる。平日は車の移動が多いため、運動不足になります。それを解消するため、週末は歩くようになります。早朝の澄んだ空気を吸って、汗を流した後は、自宅近くのホテルで朝食を。近所に住む友人で、西田さん行きつけのバー「M.Y.」のオーナー、鈴木康子さんは、「朝食友達」でもあるそうだ。「金田中・草」の炊きたてご飯とみそ汁を飲むと、お腹がホッとなりますね。最近は、和食党になりました。食事のゆとりある時間が、西田さんの仕事への活力源となっているようだ。

CERULEAN TOWER TOKYU HOTEL
<http://www.ceruleantower-hotel.com/>

セルリアンタワー東急ホテル

金田中・草

Tel : 03-3476-3420

住所：東京都渋谷区桜丘町26-1
セルリアンタワー東急ホテル2F
朝食の営業時間：7:00～10:00(L.O.)

席数：カウンター12席、テーブル78席
メニュー：和食膳¥2,310
甘夏みかん、千秋りんご、ざくろなどのフレッシュジュース 各¥578
予約：可(当日可)
カード：ほとんど可
駐車場：375台。
¥3,000以上で2時間無料



和食膳(¥2,310)。朝食のコンセプトは、「アツアツ感」。鮭の塩焼き、卵焼き染卸し、風呂吹き大根、肉kinsiらなどが、温かい状態で出される。白菜のべったら漬け、まぐろの山掛けなど6種の器は、旬の野菜や魚、肉を使った栄養バランスを考慮したメニュー構成。



西田擁平さん(39)

演出家・写真家
渋谷区在住。ミュージシャンのコンサートや舞台の演出、ファッション・アドバイザーのほか、4月よりWEBフォト・ギャラリー「shasha.net」で写真を発表予定。ウォーキングには、イタリア製のサベルトのスニーカーを愛用。



荒瀬大雅さん
ポルシェ ジャパン 広報室担当部長
広告代理店、輸入車メーカーを経て、1998年、ポルシェ ジャパン設立とともにに入社。広報室の部長としてプレスツアーのコーディネートやモーターショーのプレス発表会などを取り仕切る。



西田擁平さん
音楽演出家／琴真家
中西圭三ら国内外のミュージックアーティストのステージなどの演出や映像プロデュースを手がける。また、T V・ラジオ番組のナビゲーション、作詞家、琴真家としても活動している。



トさん
ト映画／国際部
「シカゴ」などの大作から「フィグ・アンド・アングル」といった話題作も日活に監督した。今春、現在の会員で週に3、4作を執筆するそう。



より細くしたフォルムは
ドライビング、ビジネス
にもOK。天然レザーアッ
パーがしなやかにフィット
する。MW901 ¥14,490



アッパーがミッドソール
を覆う、ヨーロッパで人気
のオーバーラスティング
デザインを天然スエード
で採用。MW1101 ¥16,590



ブランドの顔的存在1400
に、強化した衝撃吸収性。
反発弾性機能を搭載。レ
ザーとヌバックのコンビ
使い。M1400N ¥15,590



カレラGTを出した2003年
東京モーターショーでの荒
瀬さん。ポルシェジャパン
社長(中央)、本国ドイツの
ポルシェAG副社長(右)と。

運転の喜びを伝えてく ギアとして活用してい

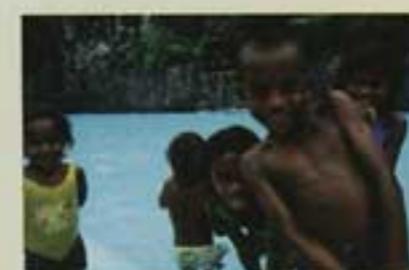
エ・ジャパンの広報活動を取り仕
切る、広報室担当部長、荒瀬大雅
さんは、自らも911カレラのハ
ンドルを握るポルシェオーナーだ。
1998年のポルシェジャパン
営業開始時から広報を担当してき
た彼は、今でも、スクールで運転
トレーニングを受けている。

「自動車業界に携わっていると、
運転姿勢は、常に問われるから。
当然、愛車には、運転しやすいス
ニーカーを載せていますよ」

「このMW901は、ソールが柔
らかくて運転しやすいです。それ
から、デザイン的には街履きとし
ても活躍してくれますね」。今回
は、茶のスニーカーに爽やかなオ
リーヴカラーのウールリネンスー
ツをセレクトした。上質なスース
にスニーカー。颯爽と歩く姿はな
んとも凜々しい。

「ポルシェは、単なる移動手段で
はなく、運転を楽しむためのギア
だと思います。その機能とデザイ
ンで歩行や運転を楽しませてくれ
る、という意味ではニューバラン
スも似た存在かもしれませんね」

西田さんの海外で撮りため
た写真作品から。これらは
日光シャンシャネット(<http://www.syasya.net>)内にて閲覧
可能。現在、個展を準備中。



陸上のトラック~砂漠 足元はいつもNBでし

バランスを愛用していた。「機能
性とデザインがアスリートに人気
でしたね」。また、大の靴好きでも
ある西田さんのコレクションには
現在、CROSS COUNTRY
をはじめ、ニューバランスが4足。
そんな彼が今回、グレーの細身バ
ンツとリネンジャケットにコーデ
ィネートしたのが、スエードの
MW1101だ。

「演出を手がける現場では、ジャケ
ツトやスースにスニーカーを合わ
せドレスダウン。アクティヴな作
業での実用性と、お客様やゲスト
に失礼のないファッショニ性の両
面を満たしてくれますから」

近年は、写真家としての活動に
も力を入れ、アフリカ、中央アジ
ア、ベトナムなど、世界各地に撮
影旅行に出かけている。
「例えサハラ砂漠での撮影など
では2週間歩きづめっていうこと
もよくあります。そんな時にも機
能的なスニーカーが欠かせません」
どうやら、時にはニューバラン
スが、旅先での作品創りに一役か
つっているようだ。

堀内さんが大きな期待を寄
せておられるベルトルッテ監督
の「ドリーマーズ」(7月31
日よりシネスイッチ銀座、新
宿武蔵野館などで)



映画の買ひ代 足で勝負しま

は海外で過ごす。彼が所属する国
際部は、カンヌ映画祭など、海外
の映画マーケットに出向き、買い
付けを行う部署だからだ。

「マーケットの開催期間はだいた
い10日間くらい。他社を入れて日
本だけでも約200人が来ていま
す。映画の配給権の交渉は、少し
でも有利に買い付けるべく、10秒
を争って、誰よりも早く担当者に
会いに行きます」

まさに現場は戦場。以前いた配
給会社では「オースティン・パワ
ーズ・ゴールドメンバー」「シカゴ」
など多くの作品の買い付けに携わ
り、今年4月の転職後すぐに注目
のケビン・スペイシー、モーガン・
フリーマン共演作「Edgon(原題)」
を買い付けるなど、勝負強い敏腕
バイヤーぶりを見せている。
「朝晩、海外権利元との打ち合
わせや試写で、広い会場内を走り
まわっています。特にスースを着
て商談するわけではないですから、
M1400Nのように、スポーツテ
イナがらシックで、しかも機能的
なスニーカーは本当に重宝します」

The Da Vinci Code Scene

Urban Landsc daVinc

ダ・ヴィンチ・コード、その都会的風景。

パリからロンドン、そして再びパリへ——。

キリスト教・中世美術の史実を覆し、世界中で波紋を呼んだ

「ダ・ヴィンチ・コード」の舞台は、皮肉なことに、現代的な表情をたたえた

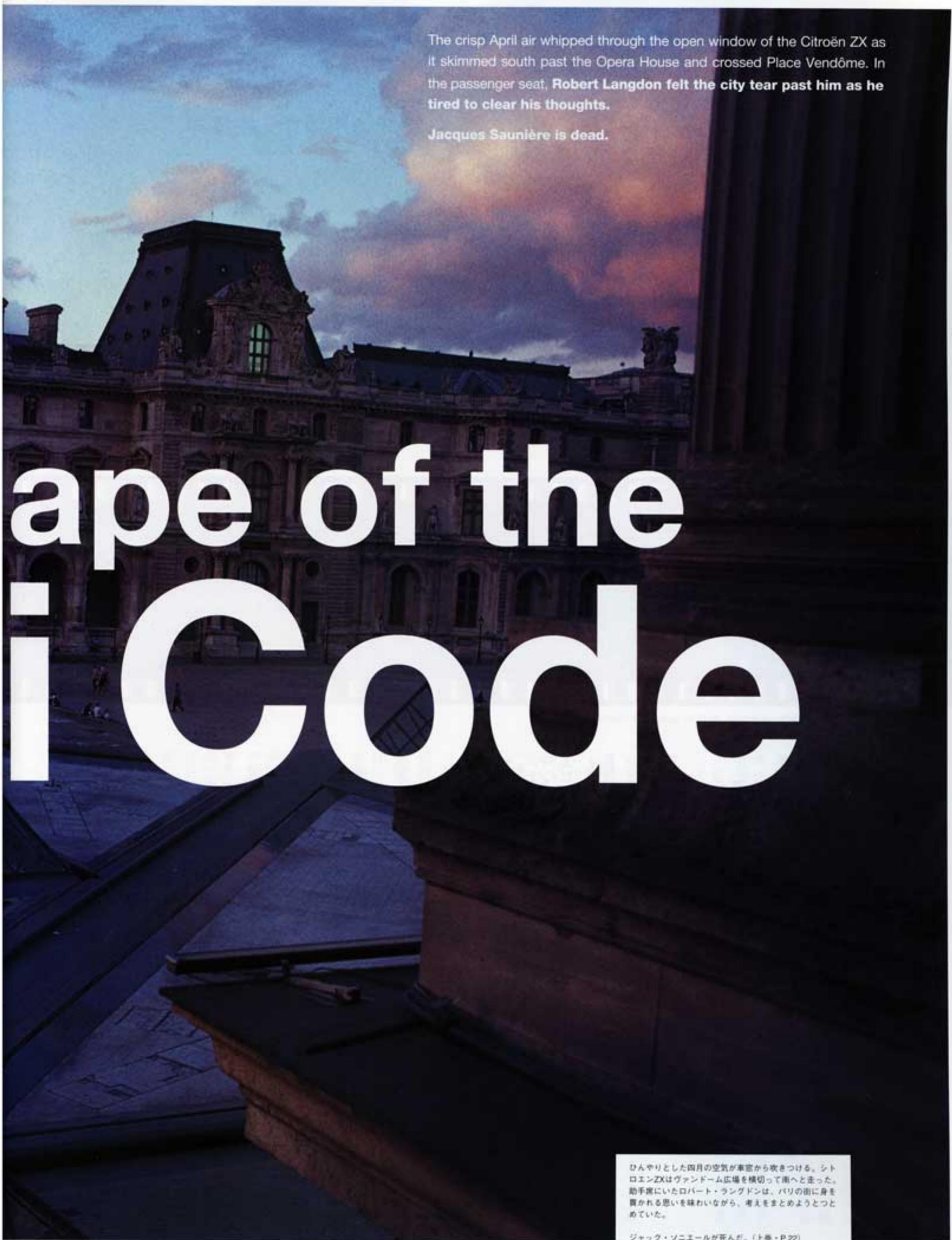
ヨーロッパの大都市だった。演出家で写真家の西田擁平氏がファインダーを向けた

物語のシーンには、そんなモダンミステリーの息吹が感じられた。

西田擁平／写真 photographs by Yohhei Nishida

西田擁平

演出家・写真家。中西圭三ら国内外のミュージックアーティストのステージ演出や映像のプロデュースを手がけると同時に、作詞家、写真家としても活動している。



The crisp April air whipped through the open window of the Citroën ZX as it skimmed south past the Opera House and crossed Place Vendôme. In the passenger seat, **Robert Langdon felt the city tear past him as he tired to clear his thoughts.**

Jacques Saunière is dead.

ape of the icode

ひんやりとした四月の空気が車窓から吹きつける。シトロエンZXはヴァンドーム広場を横切って南へと走った。助手席にいたロバート・ラングドンは、パリの街に身を震かれる思いを味わいながら、考えをまとめようとつとめていた。

ジャック・ソニエールが死んだ。(上巻・P.22)



Musée du Louvre

Langdon felt familiar tinge of wonder as his eyes made a futile attempt to absorb the entire mass of edifice. Across a staggeringly expansive plaza, the imposing **façade of the Louvre rose like a citadel against the Paris Sky**. Shaped like enormous horseshoe, the Louvre was the longest building in Europe, stretching farther than three Eiffel Towers laid end to end.

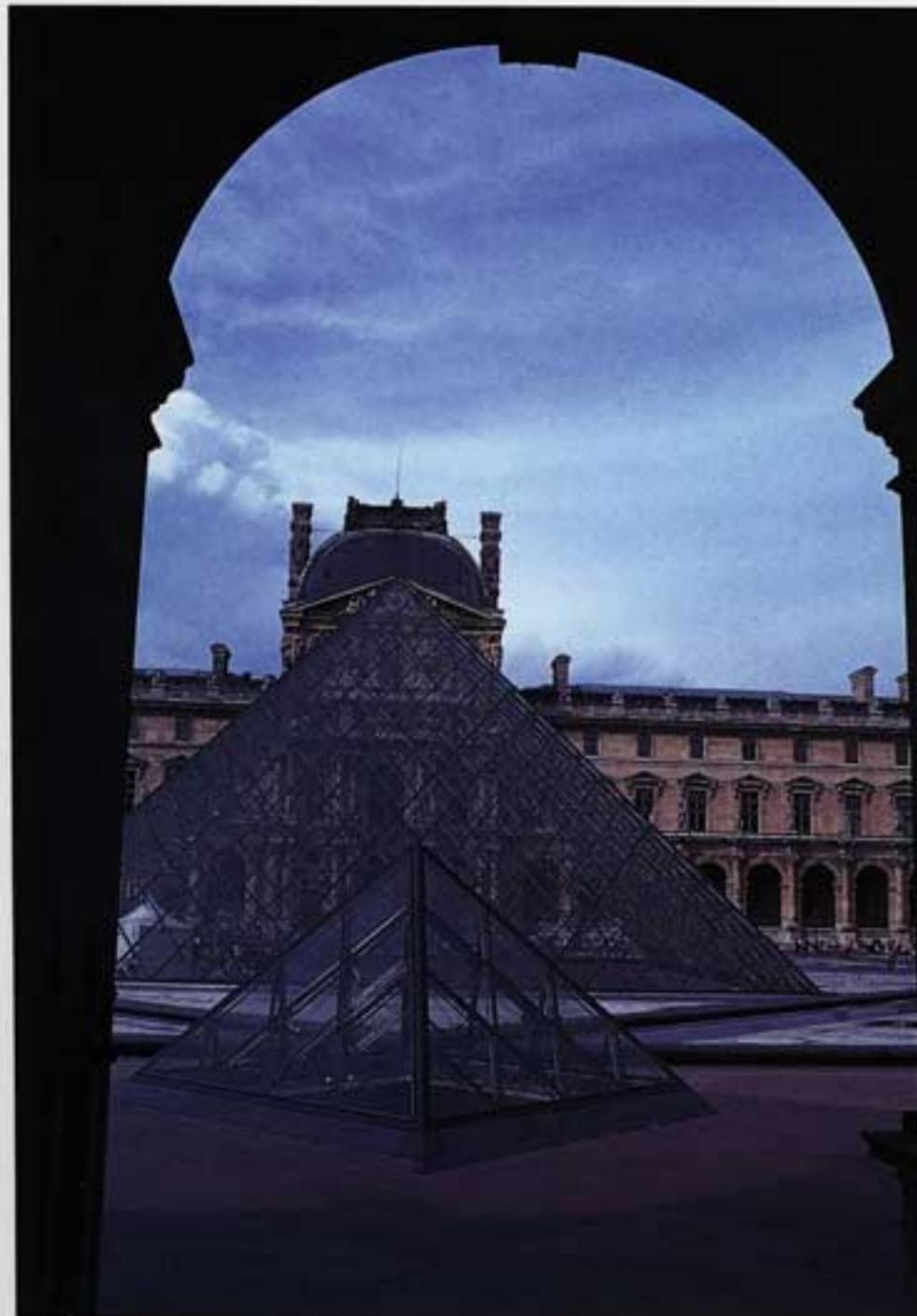
"**Do you like our pyramid?**" the agent asked.

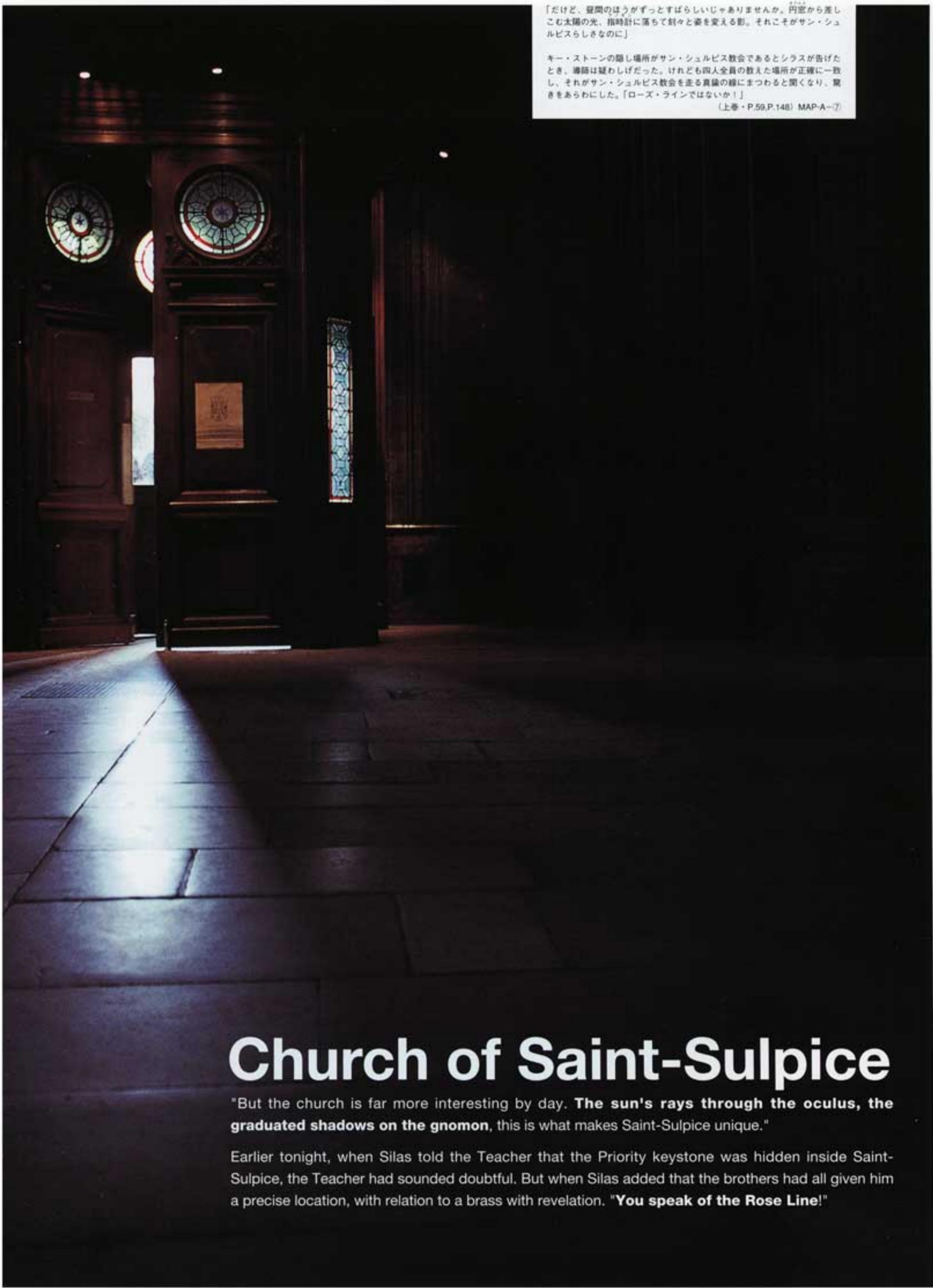
Langdon frowned. The French, it seemed, loved to ask Americans this. It was a loaded question, of course.

この壮大な建造物全体を一望にとらえとうとするわが目のむなしい試みに、
ラングドンはいつもながらかすかな驚きを覚えた。美術館は圧倒的なまでに
広い敷地を占め、堂々たるファサードが城壁のごとくパリの空を切りとっている。
巨大な馬蹄形をしたルーヴルはヨーロッパでいちばん水平方向に長い
建物であり、エッフェル塔を窓かせて三つ並べても足りないほどだ。

「あのピラミッドをどう思います？」コレが訊いた。
ラングドンは頭をしかめた。フランス人はアメリカ人にこの質問をするのが
好きらしい。もちろん、これは狡猾な質問だ。

(上巻・P.25.27) MAP-A-②





「だけど、昼間のほうがずっとすばらしいじゃありませんか。円窓から差しこむ太陽の光、指時計に落ちて刻々と姿を変える影。それこそがサン・シュルピスらしさなのに」

キー・ストーンの隠し場所がサン・シュルピス教会であるとシラスが告げたとき、導師は疑わしげだった。けれども四人全員の教えた場所が正確に一致し、それがサン・シュルピス教会を走る真鍮の線にまつわると聞くなり、驚きをあらわにした。「ローズ・ラインではないか！」

(上巻・P.59,P.148) MAP-A-⑦

Church of Saint-Sulpice

"But the church is far more interesting by day. **The sun's rays through the oculus, the graduated shadows on the gnomon**, this is what makes Saint-Sulpice unique."

Earlier tonight, when Silas told the Teacher that the Priority keystone was hidden inside Saint-Sulpice, the Teacher had sounded doubtful. But when Silas added that the brothers had all given him a precise location, with relation to a brass with revelation. "**You speak of the Rose Line!**"

Gare Saint-Lazare

Sophie was already heading for the train station entrance. "Come on. We're buying two tickets on the next train out of Paris."

Sophie raised her eyes to the enormous departure board overhead. The black and white tabs reshuffled, ruffling downward as the information refreshed.

When the update was finished, Langdon eyed the offerings. The topmost listing read:

LILLE—RAPID—3:06



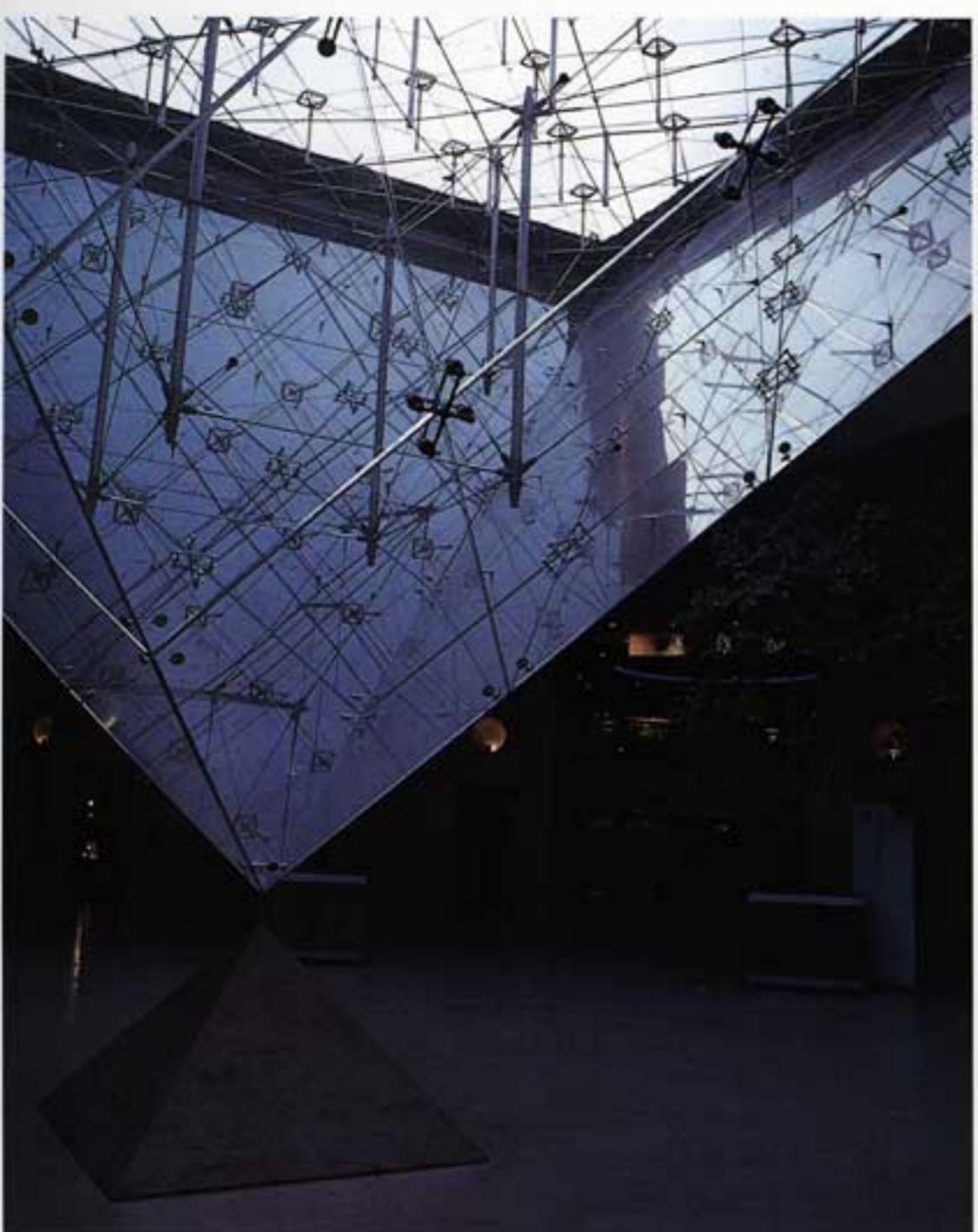
ソフィーはすでに駅の入り口へ向かっていた。「行きましょう。パリから出るつぎの列車の切符を二枚買うのよ」

ソフィーが巨大な発車案内板を見あげた。情報が更新されるたびに、白黒のパネルが動いて表示が入れ替わる。更新が終り、ラングドンは最新の情報を確認した。いちばん上の段にこう記されている。

リール行き——急行——三時六分。

(上巻・P.207,213) MAP.A-⑧

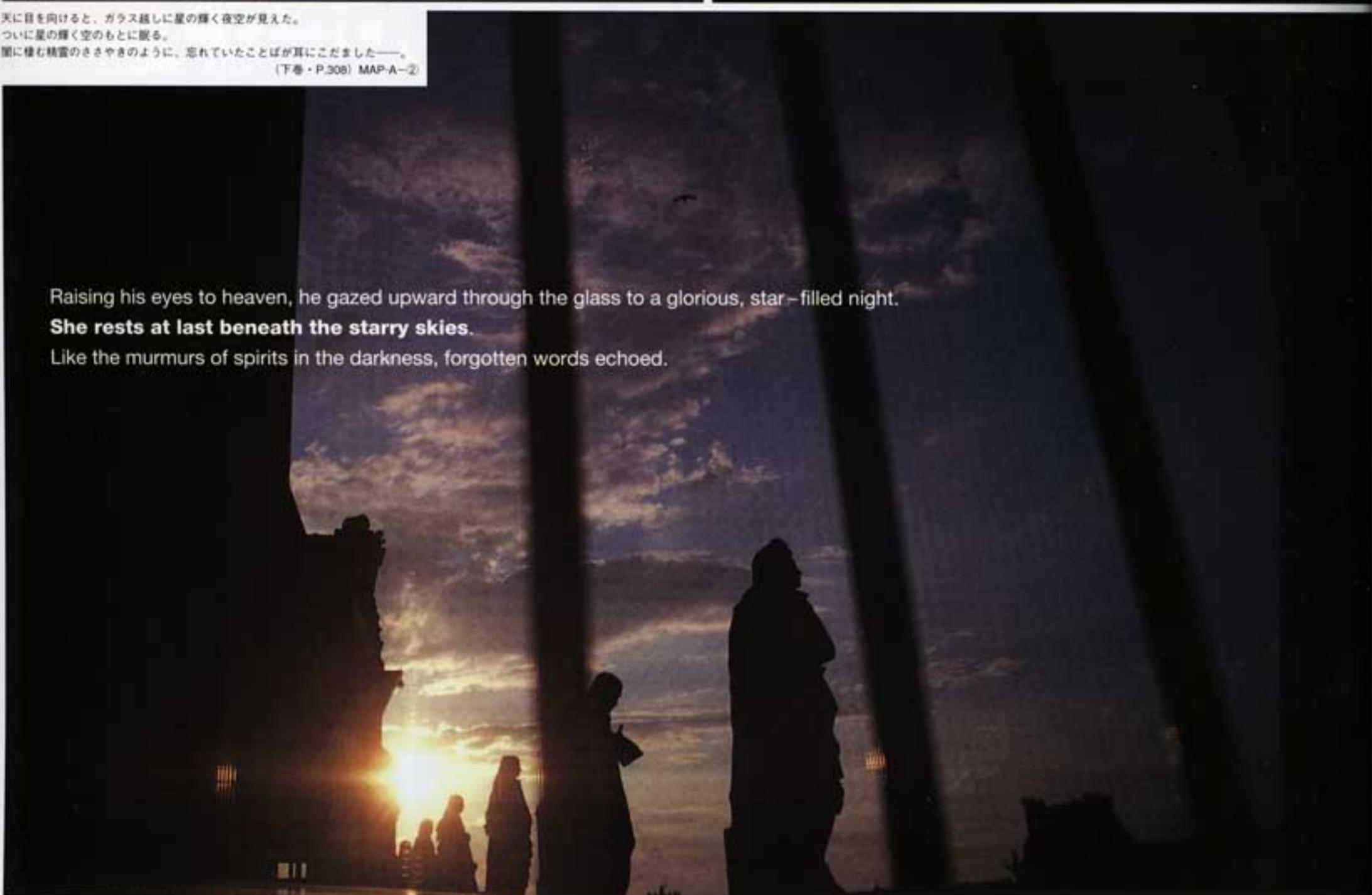




天に目を向けると、ガラス越しに星の輝く夜空が見えた。
ついに星の輝く空のもとに眠る。
闇に棲む精霊のささやきのように、忘れていたことばが耳にこだました——。
(下巻・P.308) MAP-A-②

Raising his eyes to heaven, he gazed upward through the glass to a glorious, star-filled night.
She rests at last beneath the starry skies.

Like the murmurs of spirits in the darkness, forgotten words echoed.



Westminster Abbey Chapter House

The long, deserted corridor beyond the swag was littered with scaffolding and drop cloths. Immediately beyond the swag, Langdon could see the entrances to the Pyx Chamber and St. Faith's Chapel on the right and left. The entrance to the Chapter House, however, was much farther away, at the far end of the long hallway. Even from here, Langdon could see that its heavy wooden door was wide open, and the spacious octagonal interior was bathed in a grayish natural light from the room's enormous windows that looked out on College Garden.

Go through Chapter House, out south exit, to public garden.

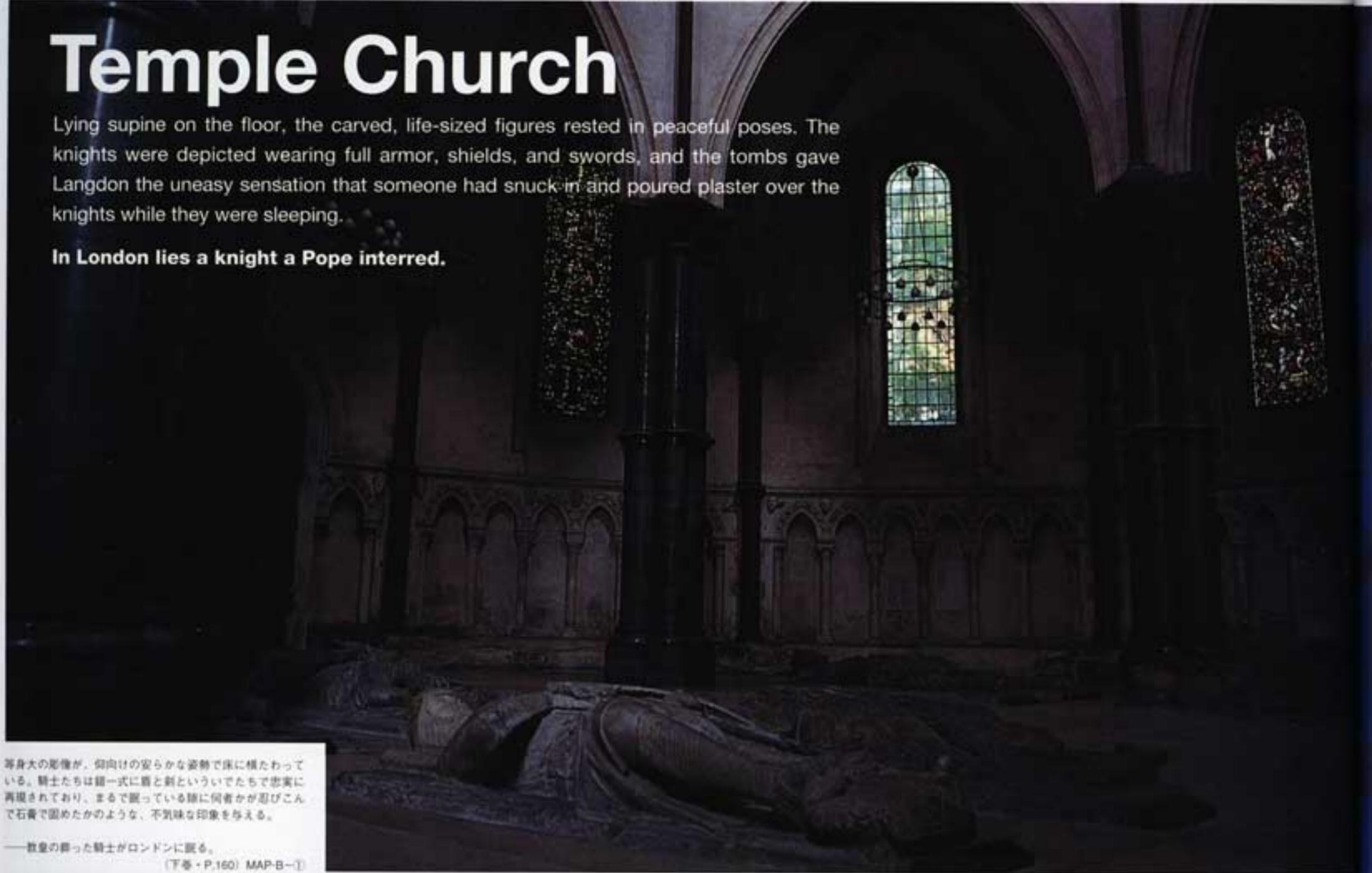
ロープの向こうの長く開放とした廊下には、足場材料やベンキ上けのシートが散らばっている。ピックス・メンバーとセント・フェイス礼拝堂の入口が、それぞれ右と左に見えた。しかしチャプター・ハウスの入口はそれよりはるかに遠く、長い廊下の突き当たりにある。ここからでも、重そうな木製の扉が大きく開いているのが見え、広々とした八角形の室内へ。カレッジ・ガーデンに面した巨大な窓から灰色がかかった自然光が差し込んでいるのがわかる。

——チャプター・ハウスを通り、南出口からカレッジ・ガーデンへ出る。
(下巻・P.238) MAP-B-⑦

Temple Church

Lying supine on the floor, the carved, life-sized figures rested in peaceful poses. The knights were depicted wearing full armor, shields, and swords, and the tombs gave Langdon the uneasy sensation that someone had snuck in and poured plaster over the knights while they were sleeping.

In London lies a knight a Pope interred.



等身大の彫像が、仰向けの寝らかな姿勢で床に横たわっている。騎士たちは鎧と剣といういでたちで忠実に再現されており、まるで眠っている隣に同者が忍びこんで石膏で固めたかのような、不気味な印象を与える。

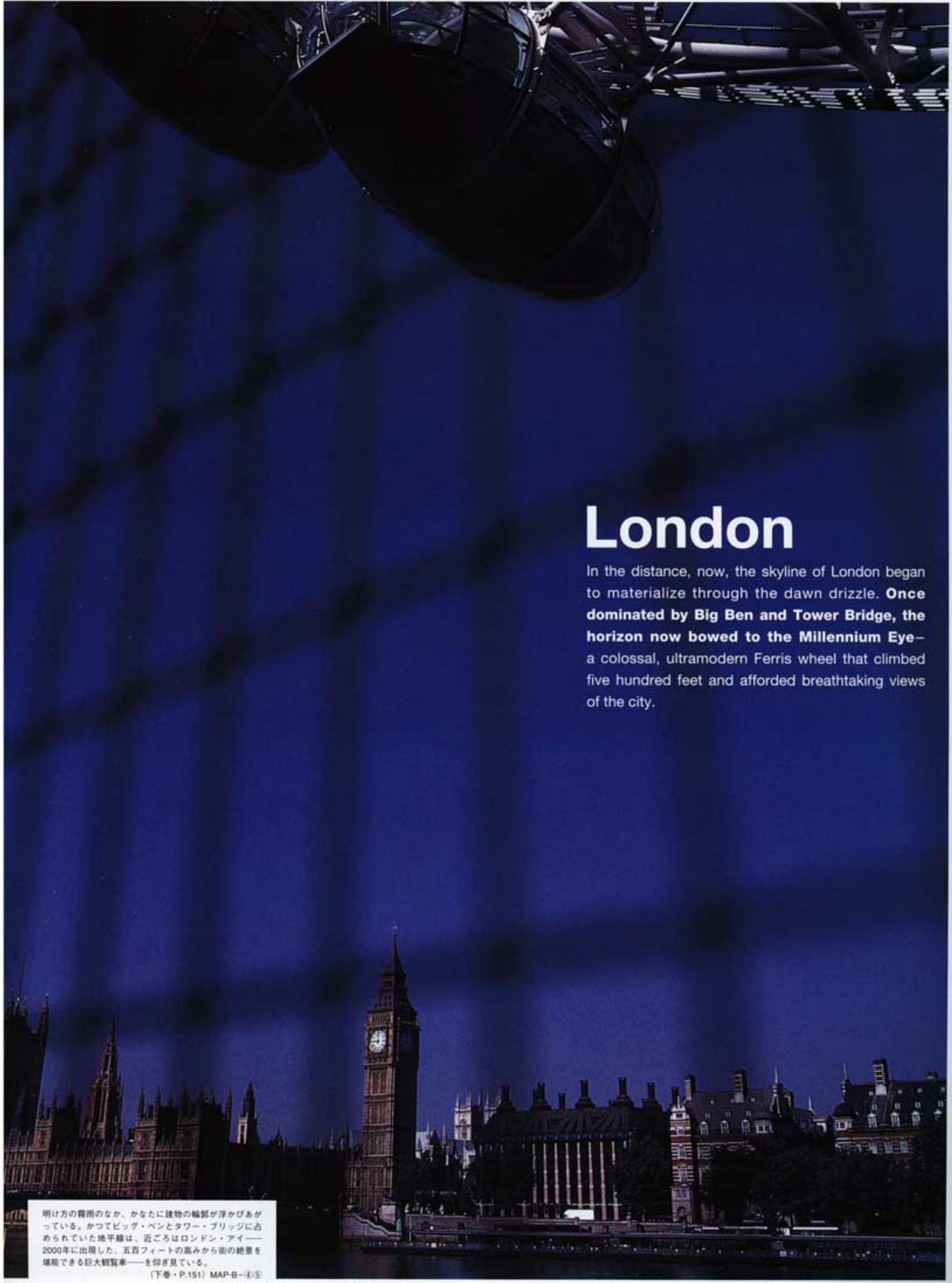
——教皇の葬った騎士がロンドンに眠る。
(下巻・P.160) MAP-B-①

St. Jame's Park

The lawns were covered with them—hundreds of white bodies all facing the same direction, patiently riding out the damp wind. Despite the morning fog, the park afforded splendid views of the Houses of Parliament and Big Ben. Gazing across the sloping lawns, past the duck pond and the delicate silhouettes of the weeping willows, the Teacher could see the spires of the building that housed the knight's tomb—

芝生はカモメでいっぱいだった——何百羽もがまったく同じ方向を向いて、湿った風に辛抱強く耐えている。雨天ではあるものの、ここからは国会議事堂とビッグ・ベンのすばらしい眺望を楽しめた。傾斜した芝地の向こうに目をやると、アヒルのいる池と、柳の木々の優美なシルエットの先に、騎士の墓がある建物の尖塔が見えた——

(下巻・P.210) MAP-B-②



London

In the distance, now, the skyline of London began to materialize through the dawn drizzle. **Once dominated by Big Ben and Tower Bridge, the horizon now bowed to the Millennium Eye—a colossal, ultramodern Ferris wheel that climbed five hundred feet and afforded breathtaking views of the city.**

明け方の霧雨のなか、かなたに建物の輪郭が浮かびあがっている。かつてビッグ・ベンとタワー・ブリッジに占められていた地平線は、近ごろはロンドン・アイ——2000年に出現した、五百フィートの高みから街の絶景を堪能できる巨大観覧車——を仰ぎ見ている。

(下巻・P.151) MAP-B-45

The Da Vinci Code Scene



① テンプル教会 ② 地下鉄テンプル駅
ラングドンたちがロンドン入りして真っ先に訪れる教会と最寄りの地下鉄駅。テンプル教会の開館時間は極めて気まぐれなので、事前にチェックが必要だ。

③ キングズ・カレッジ資料館
市内に点在するキャンパスの中で、ラングドンたちが訪れるのは宗教学関連の資料が集まるMaughan library。が、職員によると「小説にあるようなデータベースは皆無」とのこと。もちろん、外部者の立ち入りも一切禁止。残念！

④ ビッグ・ベン (国会議事堂)
⑤ ロンドン・アイ ⑥ タワー・ブリッジ
明け方にロンドン入りしたラングドンの目にビッグ・ベンとともに飛び込んできた、ロンドンのランドマーク。閉所恐怖症のラングドンは、ロンドン・アイに乗ってみたいと思いつつ、「密閉された石棺」のイメージが抜けず、未だ克服できない。

⑦ ウェストミンスター寺院
物語のクライマックスの舞台となる場所。が、映画「ダ・ヴィンチ・コード」の撮影はあえなく却下された。ウェストミンスターに代わって許可したのは、イギリス北部にあるウェストミンスターとよく似たリンク・大聖堂。

⑧ セント・ジェームズ・パーク
ロンドンの中心部。バッキンガム宮殿に隣接するロンドン最古の公園。物語では、ここで衝撃の事実が明らかになる。

⑨ セント・メアリー病院
すっかり憔悴しきったアリンガローサ司教が運び込まれる大病院。

⑩ ピギン・ヒル空港
ラングドンたちが利用した、ケント州に実在するプライベート空港。ロンドン・ヴィクトリア駅からBromley south駅まで約15分。駅からは、バスもしくはタクシーでさらに15分のところにある。





Paris

原作を片手に歩こう！ パリ～ロンドン 「ダ・ヴィンチ・コード」マップ

言わずと知れた観光名所や建築物が多数登場する「ダ・ヴィンチ・コード」。ラングドンは、シラスは、アリンガローサ司教は、どこをどう辿ったのか？登場人物たちの足どりを確かめながら、パリやロンドンの街を歩いてみよう。

P.7-16のスポットも、下記のマップをご参照ください。

photographs by Yohei Nishida 協力／フランス政府観光局 イギリス政府観光局



① ホテル・リツ・パリ

アメリカからやって来たラングドンの宿泊ホテル。故元ダイアナ妃が人生最後に泊まったホテルとしても有名。華やかなヴァンドーム広場の一角にある。

② ルーヴル美術館

ミステリーの発端となる巨大美術館。ラングドンとソフィーは目の前に広がるチュイルリー公園を横切り、スマートカーで逃走。リヴォリ通りからシャンゼリゼへと走り抜ける。

③ エッフェル塔 ④ 凱旋門

⑤ サクレ・クール寺院

ルーヴルのトイレからラングドンが見たパリ三大観光名所。ちなみに、イルミネーションに彩られたエッ

フェル塔は、ラングドンに一年前のちょっとした甘い思い出を蘇らせる。このロマンスが気になる人は、「天使と悪魔」をぜひ。

⑥ サン・ラザール駅

フランス警察からカモフラージュするため、ラングドンたちがリール行きの切符を購入する駅。が、リール行き列車は北駅発で、実際はサン・ラザール駅ではない。

⑦ サン・シュルピス教会

聖杯を探し求めて、オブス・ディの信徒シラスがやってくる教会。

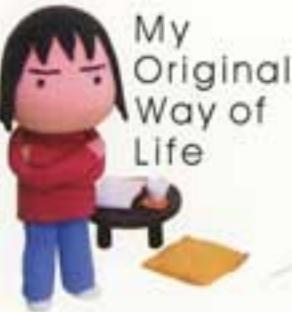
⑧ オルセー美術館

ラングドンがホテル・リツからルーヴルへ向かう途中、ポンピドゥー・センターとともに車窓から見る美術館。ルーヴルが古代から1858年までの作品を所蔵する美術館なら、オルセーは1858年～1915年まで、ポンピドゥーは1915～現代までをカバー。各時代のアートを網羅する美術館はパリの誇りである。

⑨ シャトー・ヴィレット

ラングドンの知人で宗教史学者ティーピングの邸宅。パリから北西へ車で35分（原作では25分）、ヴェルサイユ郊外に実在する保養地で、原作にもある通り館というよりは小ぶりなお城。現在、完全予約制で「ダ・ヴィンチ・コード」ツアーも敢行中だ。
詳しくはwww.Frenchvacation.comまで。





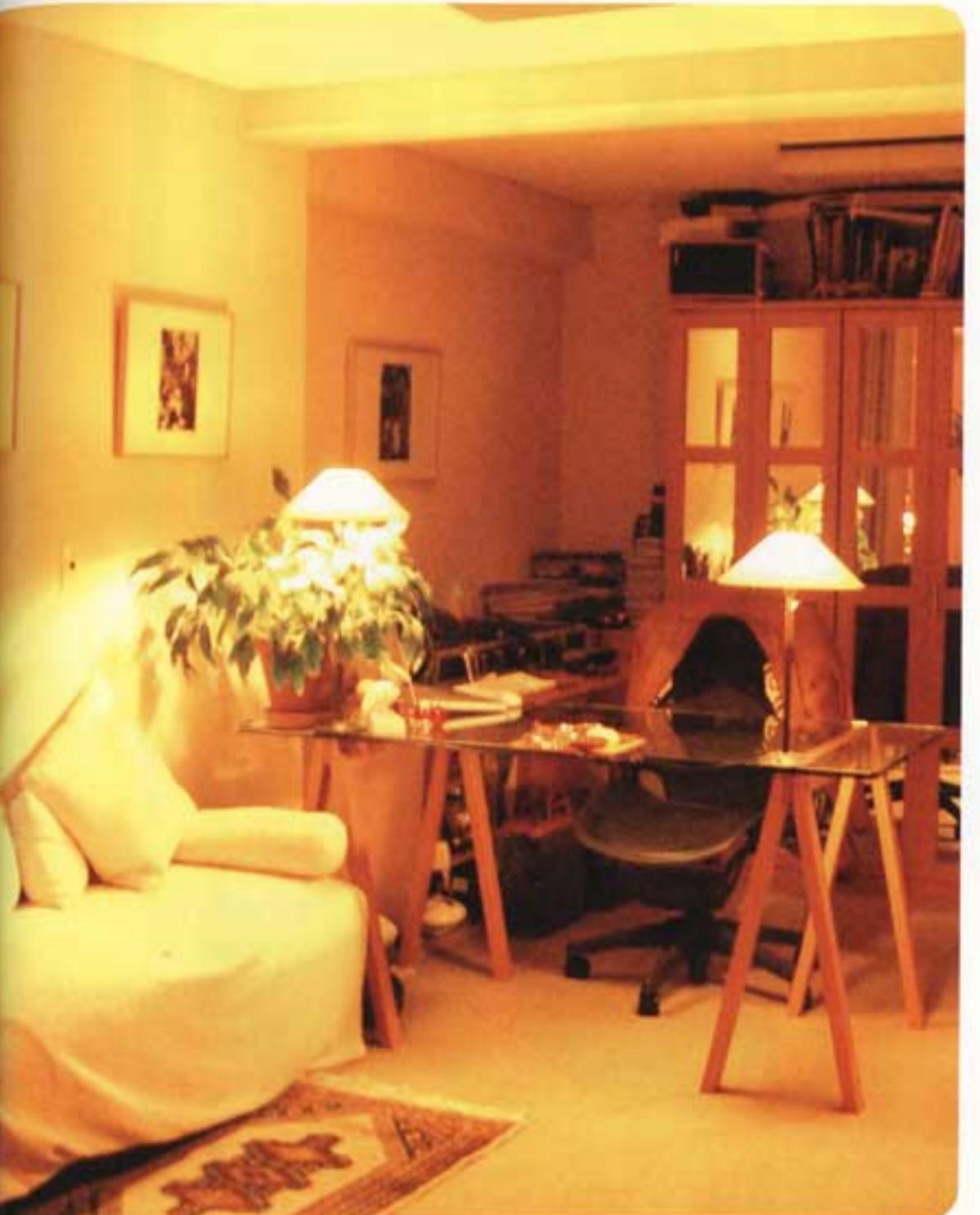
ひとり暮しひし上井の部屋

ひとりの自分が本当の自分、と思います。
気持ちよいお部屋暮らしを見習いたい！
お部屋を拝見「おじやましまーす」

素敵なお友達の
所友達。一度お部屋にご招待してもらつた
んだけどいいおうち。一人暮らし歴は長く
いらっしゃいます。

西田さんは演出・作詞・写真……と多才な人。たまに飲みにご一緒したりするご近所友達。一度お部屋にご招待してもらつたんだけどいいおうち。一人暮らし歴は長く

な人。西田さんは演出・作詞・写真……と多才な人。たまに飲みにご一緒したりするご近所友達。一度お部屋にご招待してもらつたんだけどいいおうち。一人暮らし歴は長く
「生活感が見えるのが嫌なんだよね」とサラリと言う。「自宅というのはショールームだと思うんだよ。どう違う人間なのかその部屋を見ればわかるでしょう」ううん、確かに。自分の部屋を顧みると、だらしなく散らかしっぱなしのその光景は、わたし自身ですね。あ、西田さんちのパソコン周りはキーボードもマウスもコードレスでスッキリ！ いいなあ。「いいなあ、ってせいこちゃんにまだに僕が仮セッティングしたまま使っているでしよう」うつ（一年前のまま）「セレヒちゃんは見た目をまったく気にしないからなあ。このあいだもパンツ丸



ガラス板の仕事机、後ろの棚は鏡張り。リビングとの仕切りはなく開かれた空間。

見えだつたし」そ、そんな酔つぱらつたときの話は置いといて。えっと、見た目！ 「ああ、僕は『人が見て』を気にするかも。洋服もそうだけれど、自分が着て気持ちいいのはもちろん、他人から見ていい印象かどうか」部屋も然り。

「合理性を求めるとき居心地のいい空間になるよ」テーブルも仕事机もガラス張り、仕切りや壁には鏡を多用。コレは空間を広く見せるため。昼と夜では違う雰囲気を生み出す。外の緑を反射した清々した空気感の壁は、ざわめきや陽の光を楽しむ。夜は柔らかく、トーンの落ちた部屋の中の自分だけの時間。「すべてが無の時間つて集中出来るんだ」創作や執筆活動は夜中に。

「趣味？ ううん。友人をこの部屋に呼んでホームパーティを開くことかな」料理の腕もかなりのものだとか。ゆったりした時間を過ごせるお部屋です。



このバッグはカメラを収納するためのもの。これを提げて旅に出る。



無造作にコレクションされたサングラス。
その日のスタイルにあわせて選ぶ。



コーヒー党。ポットにたっぷり、一日に何杯も飲む。



「風水、言われると気になっちゃうよね」で、通路に植物を。



西田さん



CDは数えきれないほど。でもA~Zで整理してある！

愛されて半世紀。
LOVED FOR 50 YEARS.

昭和40年からお世話になっています。

仲野 美智子さん



昭和40年からお世話になっています。
変化し続ける人々と人々の生活など記録としての写真を撮ることが多いです。
「ふる里回想」という写真集も出版しました。
コンテストなどに出品する作品は必ず“ニッパツ”さんにお願いしています。
お陰でCanonフォトコンテストなど、多数のコンテストで入賞しました。
何より、スタッフの方々が自分の作品のように大切に扱ってくださることを
心強く思っております。

“ニッパツ”は常にお客様と
同じファインダーを覗いています。

満足のいく作品に仕上げてくれます。

永岡 和子さん

先月(8/23～8/29まで)“ニッパツ”的スペース5ギャラリーでグループ展をやりました。
いろいろな写真クラブや教室の方々が集まり写真家の方が出入りする所なので、多くの
方に見ていただき、大盛況でした。

日本各地の風景を撮影しては、現像とプリントをお願いしています。
もう10年以上のお付き合いになります。大伸ばしの時など、私の製作意図をくみ取り
適確なアドバイスをいただけるので満足のいく作品に仕上ります。



写真のプロが作家の意図と
作品のズレを埋めてくれる。

西田 振平さん 演出家・写真家

数々の舞台、コンサート等で演出家として幅広く活躍している。
演出のプロが撮るスチールにも定評がある。

写真(西田さんがアートプロデュースを手がける恵比寿の美容室triccaにて)

シャッターを切る時大事にするのは、その場のリズムと空気感。
ボクの心の波動がシャッターに伝染すると、愛用のLeica(M7・R6.2)とフィルムは人の五感のように応えてくれる。
この心地よい一連の所作が銀塩で撮影する所以。そして、常にフラットにコミュニケーションがとれる“ニッパツ”的スタッフがいる。
彼らは、作品のムードを読み取り、客観的に作品を見ている。モノを魅せるプロと写真のプロ、時には対立することもあるが、
このこだわりと葛藤が作家の意図と作品のズレを埋めてくれるのではないかだろうか。

日本発色 www.nhh.co.jp

■Ginza■

〒104-0061 東京都中央区銀座 2-8-19

サービスセンター tel.03-3562-1935 fax.03-3562-2364 営業課 tel.03-3562-2361 fax.03-3562-2364

■Shinjuku■

〒160-0015 東京都新宿区大京町 26

サービスセンター tel.03-3356-8691 fax.03-3359-8785 営業課 tel.03-3356-9391 fax.03-3356-9362